

令和4年3月8日

小野寺委員

公明党の小野寺です。よろしくお願いいたします。

私からは、まず、セーリングの普及についてお伺いしたいと思います。

I O Cによれば、レガシーというのは長期にわたる特にポジティブな影響ということだそうですが、2度にわたって江の島がオリンピックのセーリング会場となった本県においては、大会後のレガシーを見据えた取組がセーリングの普及には必須であることを私も再三にわたって指摘をしてきましたので、今回、オリンピック・パラリンピック機運承継事業費として、セーリング普及推進事業費、そしてセーリング体験事業費が令和4年度当初予算に組み込まれたということは評価をしたいというふうに思っております。

多くの県民にとって敷居が高い、自分にはあまり縁のないものと思われているままでは、セーリングの普及は到底望めないというふうに思っています。オリンピックが終わって、例えばスケートボードなどは、多くの子供たちがスクールの門をたたいたと聞いています。そこまでは申しませんけれども、セーリングについてももっと気軽に楽しめるものだという機運を広めていくのは、今がチャンスだというふうに思っています。そこで、今後のセーリングの普及について何点かお伺いをしたいというふうに思います。

まず、2回にわたってオリンピックのセーリング会場となった本県でありませんけれども、県民はどこまでこのセーリングというものを身近なものとして捉えているのか、県の認識をお伺いしたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

神奈川は海のイラストなどを見ますと、しばしばヨットが描かれているように、海とヨットという一般的なイメージはあくまで多くの県民に共有されているとは思いますが、先日公表されました令和3年度県民ニーズ調査の結果を見ますと、8割を超える方がセーリングに興味や関心がないというふうに言われておりますし、さらにその裏側で、約2割弱ございますセーリング競技に興味関心があるという方のうちの1割程度は実際にセーリングの体験や見学をしたという形になってございます。

このように、今現在セーリングに興味を持っていない方が多いということもございまして、また、興味がある方でもなかなか体験をするところまでは至っていないという状態が今あるということを踏まえまして、セーリングはまだまだ気軽に楽しめるスポーツとはなっていないのかなと感じているところでございます。

小野寺委員

8割を超える方が、興味関心がないというのはちょっと残念ではありますけれども、ヨットといってもピンからキリまでありますけれども、やっぱりセーリングというのは総じてお金がかかるというイメージもあると思います。技術的なことはともかくとして、費用面でディンギーからセーリングを始めるという人が多いというふうに思いますが、例えば仮に湘南港で艇を保管したとして

どのぐらいの費用が必要になるのか、艇の入手なども含めて、もし県としてこのくらいかなというモデルのようなものを計算していれば、それを教えていただけますでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

モデルという私どもでいろんなことがあるので計算できていないんですけども、艇を購入して、湘南港で艇を保管するというのが2つの大きな要素かと思えます。もちろん艇の種類や状態によって本当に価格は大きく幅があるんですけども、気軽という観点から申しまして比較的安いディンギーという小型ヨットを中古で購入するということを前提に考えますと、安いものですと10万円を切るようなものもあると思えます。

また、これは特徴的ですが、ヨットの保管業者が同時に販売をする場合などは、ヨットの保管契約を行うということと一緒にすることで、ヨットの値段が格安になるというような事例もなくはないところでございます。

次に、湘南港にヨットを保管するというところでございますけれども、艇の長さによって条例の定める保管料が異なるんですけども、例えば県民の方が4.5メートル以下の小型のディンギーを保管するとした場合には、年間で申しますとおおむね17万円程度となります。したがって、今申し上げたように、中古のヨットを湘南港で保管するということを考えますと、20万円とか30万円、年間ではいわゆる初期投資としてはかかってくるかなというふうに考えているところでございます。

小野寺委員

今おっしゃったように10万円の中古の艇を買ってから結構お金がかかったと、そういうことも想像しますが、ただ、意外とそれほどかかるものじゃない。特にディンギーって小さいけれども、別に操作は簡単なわけでもありませんから、やっぱり最初一人じゃあ無理ですし、仲間を募ってということになると思うんです。そうすると、仲間でお金を出し合って楽しむということを考えると、そんなに大変な初期投資も必要ないというふうにも思いますので、その辺りのことをどういうふうに理解をしていただくかということなんだというふうに思います。

ヨットは、クルーザーでも今おっしゃったディンギーでも、帆走して眺めるというだけではなくて、実際に乗ってみれば、その楽しさは理解できるものかなというふうに思ったりしております。

神奈川県内にこうしたセーリングを体験できる、そういう場所というのはどれぐらいあるのか、把握している範囲で結構ですのでお答えいただきたいと思えます。

オリンピック・パラリンピック課長

クルーザーとかウインドサーフィン限定とか様々な団体ございますけれども、県が把握している範囲で申しますと、相模湾側、東京湾側合わせまして県内で15か所程度、そういった体験できる団体があるのかなというふうに把握してございます。

体験できる場所としましても、湘南港をはじめとするマリーナ・ヨットハーバーというものもございますけれども、例えば海岸の近くで受付をして、いわ

ゆる砂浜から艇を出すというような、そういった業者もごございます。ヨットクラブ以外にもセーリングの体験やセーリングのスクールを主催する団体もあるところをごございます。

小野寺委員

15か所ぐらいあるだろうということなのですが、そうした場所ですとか、そうした機会がどこまで県民に周知されているのかということが問題なんだと思いますが、そうした関係団体等の情報というのは、どういうふうに県民に対して周知されているのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

周知でございますけれども、そういった体験会などを主催する団体は、小規模なところが多いので、正直なところ、広報の手段はインターネットのホームページが主流でございます。そのために、団体さんに話を伺いますと、どのようにして団体の活動を広く周知して多くの参加者を受け入れていくかが課題の一つになっていると、こんなお話もございました。

体験会の実際の運用ですけれども、日程を決めて参加者を募るような定期的な体験会を開催する場合もございまして、あらかじめホームページなどで体験会を受け入れますということをやって周知していて、実際に希望があったら、その希望者の都合に合わせて体験会を決定するという方法で行うことも多いようでございます。

小野寺委員

それぞれの団体のホームページ等で周知させていくということなんだけれども、県としてどこまで可能なのか分からないけれども、例えばセーリングの普及ということに関して県でポータルサイトとまで行かなくても、入り口となるようなホームページのようなページを設けて、そこにリンクを張って県内という団体が今活動しているのか、どういうふうにメンバーを募集しているのか体験ができるのか、そういった情報を束ねてあげるみたいなことができたらいいのかなど。探しに行くのは大変ですので、そういった役割を県が果たしていただいたらありがたいかなと今、御答弁を伺いながら感じました。

あと先ほどおっしゃったように、県内には比較的低廉な費用で参加できるセーリングクラブ、あるいはスクールもあります。そうした民間とも連携しながら、セーリングに対するハードルを着実に下げていかなければならない。そのために県として今後どういうふうに取り組んでいくのか、そのお考えをお示してください。

オリンピック・パラリンピック課長

私どもとしましては、多くの方がセーリングにまず興味を持っていただいて、また、その上でヨットに乗ってみようというような気持ちを後押しするような取組をしていきたいというのが基本的な考えでございます。

まず、江の島をはじめとする地元の団体の方と連携しながら、セーリングの体験会を実施することで、まずはセーリングの楽しさもそうですけれども、気軽に楽しめるスポーツであることを伝えていけたらと思っております。

また、今委員からも御指摘ございましたけれども、セーリングに関する情報をできるだけ多くの方に伝えるということを我々としてもやっていくことがで

きればと思っております、来年度にリーフレットの作成を予定しておりますけれども、その中にセーリングの体験の情報などを盛り込んで、例えば我々が来年予定しているイベントなどの場でこれを配っていくような周知をすることによってセーリングへの興味を高めて、セーリングへの心理的なハードルなどを下げることにもつなげていければと考えてございます。

小野寺委員

要は、ヨットなんで、セーリングなんで、無縁だというふうに思っている人に興味を持ってもらうということが大事で、そのためにはどういった情報をどのように伝えていくのか、どういうふうにしていったら一番有効だという、そこを教えてください。

オリンピック・パラリンピック課長

2つぐらいあるかと思っております、1つはまずはセーリングのそもそもの部分、まずはセーリングはどんなものなのか、セーリングとはどういうことなのか、そういうことを概要的に皆さんに知っていただくこと。あとはもう一点、今委員からも何度か御指摘頂きましたけれども、気軽にセーリングに触れるというためには何をすればいいのか、恐らくセーリングに興味がある方も、どこに行けば、どんな情報を得ればセーリングを経験したり体験したり触れたりすることができるのか分からない部分が多いと思っておりますので、今申し上げたリーフレットなどを活用しながら、一步踏み出すようなきっかけをつくるようにできればと思っております。

小野寺委員

リーフレットなどの活用もそうですけれども、運営サイトもありますから、やっぱりそういうところも活用していただきたいと思います。

4月からオリパラ課はなくなってしまうかもしれませんが、セーリングの普及というのはオリンピックの重要なレガシーのように考えていますので、来年度以降もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

1月28日の読売新聞神奈川版に、ヨットの授業は海でこそという見出しの記事が掲載されています。日本セーリング連盟が藤沢市の小学校において、定期的に授業で海上でのヨット体験を導入するよう求めているという内容でございました。記事によれば、イギリスやフランスではセーリングが授業に組み込まれていたり、先行会派の質問でありましたけれども、アメリカでは水質検査などを通じて環境について理解を深める機会になっているということでもあります。様々な課題はあるというふうに思うんですけれども、オリンピックの開催地ならではの取組になると思いますので、県としても実現に向けて可能な限りの支援をお願いしたいと思いますのでよろしく申し上げます。

次の質問に移ります。

次は、かながわパラスポーツの普及推進についてお伺いをしたいと思います。

令和4年度当初予算案の中に、かながわパラスポーツ推進事業費ほか計上されています。県では、この障がい者スポーツを推進する上で、かながわパラスポーツというコンセプトを打ち出してその普及を図っているということは承知しております。しかしながら、そのかながわパラスポーツという言葉が広く理解され、浸透しているのかというと、そこは疑問が残るかなと。そこで、

このかながわパラスポーツを普及させるために何が必要なのかということ念頭に置いて何点かお伺いしていきたいと思いますが、一般的には、パラスポーツイコール障がい者スポーツという理解になっているというふうに思うんです。そこで、あえてかながわパラスポーツという概念を打ち立てようとした理由、そのコンセプト、それについて改めて確認をさせていただきたいと思います。

スポーツ課長

今委員お話しのように、県では、平成27年にかながわパラスポーツ推進宣言を公表しまして、パラスポーツという概念を従来の障害者がするスポーツというところから一歩進めまして、全ての人が自分の運動機能を生かして、同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることをかながわパラスポーツと捉えることとしたものでございます。

このかながわパラスポーツ推進宣言によりまして、健常者の方も含めた全体のスポーツの底上げをすることを認識していただくことと、もう一つは、パラアスリート等に対するリスペクトを広げるといったことを中心に県民に周知していくといったような趣旨で宣言されたものと認識しております。

小野寺委員

そうでしたよね。私たちも自分たちのできる範囲でこのかながわパラスポーツという新しい概念を少しでも、少なくとも自分の地域の有権者に知ってもらいたいとか、そういうことで広報のお手伝いをさせていただいたときもあるわけですが、ただ、このパラスポーツという言葉、さらに言えばその理念、これはどの程度県民の間に浸透しているのか、その認知度などについて恐らく調査をされていると思いますので、確認をさせてください。

スポーツ課長

県の政策局が実施をしました令和3年度県民ニーズ調査の中で、かながわパラスポーツについて知っていますかという設問で調査を行っております。調査結果は先月公表されたところですが、全体の回答数1,409のうち、知っているが3.5%、言葉は聞いたことがあるが13.1%、知らなかったが82.6%、無回答が0.9%という結果であり、認知度としましては、知っていると言葉は聞いたことがあると合わせた16.6%となっております。

小野寺委員

パラリンピック等もあった割にはなかなか浸透していないというのが現実なんだというふうに思います。これまで県として、このかながわパラスポーツの普及、そして周知に向けてどんな取組を行ってきたのか伺います。

スポーツ課長

これまで多くの人にかながわパラスポーツを知っていただくため、かながわパラスポーツフェスタなどの普及啓発イベントを開催してきました。また、障がい者スポーツ教室など、定期的・継続的にパラスポーツを体験できる取組や、障害者スポーツサポーターのようなパラスポーツを支える人材を養成する取組などを行ってきたところでございます。

小野寺委員

様々取組は行ってこられたということが分かりましたが、なかなか浸透するところまでは難しいというのが現実なんだと思います。これは、県と比べて、

やはりこういうスポーツのイベント等の現場というのは、市町村はたくさんお持ちだと思えます。果たしてこのかながわパラスポーツという理念を、概念を市町村と共有できているのかどうかというところなんですけれども、そこはいかが考えますか。

スポーツ課長

市町村によっては、障害者のスポーツ関連業務を福祉部門で所管しているところもありますが、これまでスポーツ振興や障害福祉の主管課長会議などの場などを活用しまして、かながわパラスポーツの推進に向けた県の取組を共有するとともに、市町村からの要望や相談などがあった場合には、随時個別に対応するなど、連携した取組を行っています。

また、今年度は、秦野市や藤沢市など幾つかの地域で独自のパラスポーツイベントを行っている事例も出てきましたので、かながわパラスポーツのコンセプトの共有も、徐々にではありますが広がってきているものと考えております。

小野寺委員

県は元からスポーツをつかさどるこうした局がありますけれども、市町村だと先ほど御答弁にあったような福祉部局がやっていたり、いろいろ取組の温度差があるというふうに思いますので、引き続きしっかり浸透を図るというところに力点を置いていっていただきたいと思えます。一方で、施設に関して、県は先ほど来、県立スポーツセンターにこうしたパラスポーツの拠点機能を持たせてきたということがありますが、市町村のスポーツ施設においては、障害者への対応状況は様々だと思えます。今、県が把握している範囲で結構ですので教えていただけますか。

スポーツ課長

県内市町村のスポーツ施設の中でパラスポーツに特に力を入れている施設といたしましては、横浜市の障害者スポーツ文化センター横浜ラポールや、相模原市のけやき体育館といったところがございます。このほかにも市町村によりかなり異なる状況はございますが、既存施設でバリアフリー化に対応しているケースは多いと聞いております。

小野寺委員

今、代表的な政令市にある施設を教えてくださいましたけれども、県のノウハウというか、そういう意味で市町村への支援もしっかりと力を入れてやっていただきたいというふうに思えます。

それでは、県が市町村と連携してかながわパラスポーツの推進に取り組んでいる具体的な事例があったら教えてください。

スポーツ課長

例えばかながわパラスポーツフェスタは、これまで県内各地域で実施してきたところですが、地元市町村の主催するイベントをフェスタと同じ会場で同時開催して相乗効果を図るといった連携を行っています。

また、市町村が開催するスポーツ教室や体験会に、県がパラスポーツの講師を派遣して実施を支援するといった形での連携も行っているところでございます。

小野寺委員

県内隅々までかながわパラスポーツの理念を浸透させていくというのは、くどいようですけれども市町村との連携が欠かせないというふうに思います。さっき、県内の県民の方々に対する調査でまだ極めて認知度が低いということが分かりましたけれども、それぞれの市町村も自分の市町村の中でかながわパラスポーツの理念を浸透させていくには、その理念をしっかりと共有しなければそもそも無理な話ですから、市町村の担当の部局、担当者としてしっかりと理念の共有というのをまず行っていただきたいと思います。これまで以上に強化していただければなというふうに思っています。

最後に、このかながわパラスポーツのコンセプト、理念、これを広めていくために、これから何に力を入れてどんなことを行っているのか、そこを確認させていただければと思います。

スポーツ課長

夏季、冬季と連続してパラリンピック競技大会が開催されたこともありまして、パラスポーツもこれまでより注目されるようになりましたが、注目されるということがそのままパラスポーツに対する理解やパラスポーツの普及につながるということにはなりません。そのため、まずは、県民の皆さんにパラスポーツへの理解を深めていただけるようこれまで実施してきた地道な取組を継続してまいります。

また、来年度については、県立スポーツセンターにおけるスポーツ教室やパラスポーツ設備を拡充するとともに、市町村へのパラ講師派遣の拡充も予定していますので、今後もパラスポーツへのニーズを把握しながら事業の拡大や新規事業などの検討をしていきたいと考えています。

さらに、本県では、この11月にねりんピックかながわ2022も開催されますので、こうしたスポーツに対する関心が高まる機会に県民の皆さんにパラスポーツを体験してもらいイベントなどを実施し、パラスポーツへの興味・関心を深めていただくことでかながわパラスポーツの普及をさらに進めてまいります。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響もありまして、十分な事業展開ができなかったこともございますので、新型コロナウイルス感染症の感染状況にも注視しながらかながわパラスポーツのコンセプトの普及につながるようしっかり取り組んでいきたいと考えています。

小野寺委員

今御答弁にあったように、コロナ禍の影響でなかなかかながわパラスポーツの推進について十分な事業展開ができなかったというのは大変残念なことだったと思います。ただ、パラスポーツそのものへの理解とか注目というのは、それなりに進んでいるんだというふうに思っています。パラリンピックも、今、冬季大会が行われていますし、皆さん注目して見ているんだというふうに思います。だけれども問題なのは、パラスポーツイコール障害スポーツという概念が一般的な中で、かながわパラスポーツという単なる障害者の方々が取り組むだけのスポーツではないんだというコンセプトの普及というのが大変難しいという状況になっているというふうに思うんです。

本当にひどいようですが、結局県民への浸透といったって、市町村の中への浸透ということですから、現場をたくさん持っていらっしゃる市町村との連携というのも裾野の拡大という意味では大変重要になってまいりますので、そのような視点も持っていただいてしっかり取り組んでいただきたいと要望させていただきます。質問を終わります。